

令和3年 第1回全員協議会会議録

令和3年10月26日 議員控室

○事 件

町長報告事項

- (1) 八雲町監査委員の選任に関し同意を求めることについて（総務課）
- (2) 八雲町副町長の選任に関し同意を求めることについて（総務課）

協議事項

- (1) 初議会の招集予定日について
- (2) 初議会の議事等進行予定について
- (3) 議長及び副議長の立起表明

○出席議員（14名）

赤 井 睦 美 君	安 藤 辰 行 君
大久保 建 一 君	倉 地 清 子 君
黒 島 竹 満 君	斎 藤 實 君
佐 藤 智 子 君	関 口 正 博 君
千 葉 隆 君	能登谷 正 人 君
牧 野 仁 君	三 澤 公 雄 君
宮 本 雅 晴 君	横 田 喜世志 君

○欠席議員（0名）

○出席説明員（3名）

町長 岩 村 克 詔 君	総務課長 竹 内 友 身 君
財務課長 川 崎 芳 則 君	

○出席事務局職員

事務局長 三 澤 聡 君	事務局次長 成 田 真 介 君
庶務係長 松 田 力 君	

[開会 午前10時00分]

◎ 開会・座長選出

○議会事務局長（三澤 聡君） 定刻となりましたので、これより始めさせていただきます。

改めまして、皆さん、ご当選おめでとうございます。皆さんの任期は23日から始まっておりますので、今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日の会議につきましては、初議会に関する協議・調整をお願いしたいというふうに思っております。

それでは、本日の会議の座長の選出でございますが、全員協議会規定第4条第1項但し書きの規定によりまして、年長議員が議事運営を行うこととなっておりますので、斎藤議員に座長をお願いしたいというふうに思います。斎藤議員は、座長席へご移動をお願いいたします。

◎ 座長挨拶

○座長（斎藤 實君） 自己紹介を兼ねまして、一言ご挨拶申し上げます。合併後、今回で5期目の当選でございます。この選挙期間中に、地域、八雲全体が夢のあるまちづくりにまい進したいと、このように訴えてまいりました。そのようにこの4年間議員活動を努めてまいりたいと、このように思いますので、よろしくお願ひいたします。私は、斎藤實と申します。

ただいま、局長さんからお話がありましたように、本日の会議の座長ということで、私が取り進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

◎ 開会・議員自己紹介

○座長（斎藤 實君） ただいまから、全員協議会を開会いたします。まず議員全員から自己紹介をいたします。それでは関口議員さんのほうからお願ひいたします。

○議員（関口正博君） 関口正博と申します。2期目でございますが、1期目のつもりで初心を忘れずに一生懸命勉強したいと思っております。どうか皆様のご指導をよろしくお願ひいたします。

○議員（牧野 仁君） 私、3期目で、この度、希望を持てるまちづくりをもって、これから3期目も頑張りたいと思っております。牧野仁ですけれども、よろしくお願ひいたします。以上です。

○議員（大久保建一君） 大久保建一でございます。私も牧野さんと同様、3期目ですけれども、初々しい気持ちで頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○議員（安藤辰行君） 4期目の安藤辰行でございます。よろしくお願ひいたします。

○議員（横田喜世志君） 横田喜世志です。私も4期目になりますが、まだ未熟なので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○議員（佐藤智子君） 佐藤智子です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○議員（赤井睦美君） 赤井睦美と申します。コロナでできなかった、一般会議、議会報告会、一生懸命町民の皆様とともにやっていきたいと思っておりますし、議会の中では、いろんな意見があると思うんですけれども、議員間討議を積極的にやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○議員（黒島竹満君） 4期目の黒島竹満でございます。昨年はですね、副議長として能登谷議長のもと4年間やらせていただきました。皆様のご理解とご協力に感謝を申し上げて、自己紹介とさせていただきます。ありがとうございました。

○議員（千葉 隆君） 千葉でございます。議会の一員として頑張りますので、よろしく願いいたします。

○議員（三澤公雄君） 三澤公雄です。5期目を迎えました。5期目といえども初心に帰って、一挙手一投足、印象に残る議会活動をやっていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○議員（倉地清子君） 倉地清子と申します。右も左も本当にわからないので、皆さんどうかご指導ください、よろしく願いいたします。

○議員（宮本雅晴君） 3期目の宮本雅晴です。もつともつと八雲を元気にという部分で、スローガンで頑張ってまいりましたので、また4年間一生懸命頑張っていきたいなと思っております。よろしく願いいたします。

○議員（能登谷正人君） 能登谷と申します。前期4年間は大変皆様にご協力をいただいて、なんとかうまく議会を乗り越えたと思っております。大変、議長時代にはお世話になりました。ありがとうございました。能登谷です。

○座長（斎藤 實君） それでは事務局からも自己紹介をお願いいたします。

○議会事務局長（三澤 聡君） 局長の三澤と申します。引き続きどうぞよろしく願い申し上げます。

○議会事務局次長（成田真介君） 次長の成田です。どうぞよろしく願いいたします。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） 庶務係長の松田です。どうぞよろしく願いいたします。

○議会事務局臨時主事補（青木彩華君） 臨時主事補の青木です。よろしく願いいたします。

◎ 町長報告事項

○座長（斎藤 實君） それでは、町長報告事項に入ります。

一点は、八雲町監査委員の選任に関し、同意を求めることについて、説明をお願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 座長、町長。

○座長（斎藤 實君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 私もですね、議員皆さんと2期8年間やらせていただきました。3期目も議員の皆さんと協力をもって、この町のために一生懸命働きたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、早速、監査委員の選任についてご説明申し上げます。本件は識見を有する監査委員の千田建悦氏が本年11月14日をもって任期満了となることから、その後任の選任に当たり、議会の同意をいただくとするもので、専任しようとする方の略歴等はお手元の参考資料の1ページに記載しております。この方は高い専門的知識をお持ちであり、委員の職務を遂行するたる人格と識見を有し、公平・不偏の立場で努めていただける適任者でありますので、議員各位のご賛同をお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

○座長（斎藤 實君） 説明が終わりましたが、この件について質疑を許しますが、個人情報の取扱いには十分気を付けながら、質疑を行っていただきたいと思っております。何かありますでしょうか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） 以上で質疑を終結いたします。

次に、八雲町副町長の選任に関する同意を求めることについて説明をお願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 座長、町長。

○座長（斎藤 實君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 副町長の選任についてご説明申し上げます。

本件は、吉田邦夫氏と萬谷俊美氏が本年11月16日をもって任期満了となるほか、副町長体制を1名としたことから、次期副町長の選任に当たり、議会の同意をいたごとするものであり、専任しようとする方の略歴等はお手元の参考資料の2ページに記載しております。皆様もご存じのとおり、この方は豊富な行政経験を有し、周囲からの信頼も厚く、町の課題に取り組む的確な人材であり、副町長として適任であると確信しておりますので、議員各位のご賛同をお願い申し上げ説明といたします。よろしくをお願いいたします。

○座長（斎藤 實君） 説明が終わりました。質疑を許しますが、先ほどと同様に、個人情報の取扱いに十分に気を付けながら、質疑を行っていただきたいと思います。何か質疑ございますか。

○議員（赤井睦美君） 個人についてじゃなくても大丈夫ですか。

○座長（斎藤 實君） はい。赤井議員。

○議員（赤井睦美君） 成田さんには大賛成というか、なんにもないです。ただ、今までお二人でやっていたことを一人になると、かなり負担が大きいのじゃないかと思うんですけども、その下の構成というか、そういうのは今後、変革されていくというお考えで、お一人なんですか。

○町長（岩村克詔君） 座長、町長。

○座長（斎藤 實君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 八雲町ですね、だいたいこれくらいのクラスの町だとだいたい一人でやっているのが通例でありますので、ただ今までに二名でやっておりました。それに対してもですね、今までどちらかという二名いることによって、説明が二人の副町長が同じ説明をすると、そんな行為は無駄な動きもありました。一名になると係から課長さん、そしてずっと上のほうに通ってくる。また上から下に流れてくるという流れをきちっといくんじゃないかということと、なんとんでもこの方は病院に明るいということで、八雲町の課題は病院に多くありますので、その辺もしっかりと4年間やりたいという思いで、この方を副町長ということでお願いをしています。

○議員（赤井睦美君） はい。

○座長（斎藤 實君） はい。赤井議員。

○議員（赤井睦美君） 町長は、ほとんどきっとコロナが収まってきたら八雲にいらっしゃらないことが多くて、彼の負担がすごく大きいと思うんですね、だから本当に彼が心の病気にならないような、そういう人事構想というか、構成をしっかりと考えてあげてほしいです。

○町長（岩村克詔君） 座長、町長。

○座長（斎藤 實君） 町長。

○町長（岩村克詔君） その辺はしっかりと配慮しながら町運営を執行していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○座長（斎藤 實君） そのほか、町のほうからなにかありますでしょうか。なければこれで終了したいと思いますのですが、よろしいですか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） わかりました。それでは理事者の皆さん大変ご苦労様でした。

◎ 協議事項

○座長（斎藤 實君） 次に、協議事項に入ります。

初議会の招集予定日については、先の前議会運営委員会関係者会議で協議した結果、記載のとおり、11月9日火曜日といたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） ご異議なしと認めます。そのように決定いたしました

次に、初議会の議事等進行予定表について、事務局より説明をお願いいたします。

○議会事務局長（三澤 聡君） 座長。局長。

○座長（斎藤 實君） 局長。

○議会事務局長（三澤 聡君） それでは、初議会の議事等進行予定表について、資料1をご覧くださいと思います。まず、開会前になりますけれども、仮議席のほうに着席していただきたいと思います。仮議席につきましては、この後の会派代表者会議で調整していただきます。

次に、この度、三澤議員が町の功労表彰を受賞されましたので、町長から表彰状の授与を行います。

続きまして、臨時議長の選出を行います。臨時議長につきましては、本日同様、年長の議員が臨時議長を務めることとなりますので、斎藤議員に進行をお願いしたいと思います。

続きまして、自席から各議員の自己紹介をお願いいたします。

その後、本会議が始まりますが、臨時議長による議事で仮議席の指定と、その後、議長選挙を行います。議長選挙につきましては、投票の方法で行いたいと思います。

次のページに選挙の投票方法を図で示してございます。当日は私のほうから名前を読み上げますので、その順番でこの図のように向かって右側から、いわゆる廊下側のほうから演壇のところに投票箱がありますので、そこに投票していただいて、左側から席に戻っていただくというやり方になりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、議長が決まりましたので、議長の就任挨拶を演壇で行います。そのあと臨時議長と議長が交代して議長による日程が配付され、議長による議事になります。議長による議事につきましては、最初に議席の指定を行います。仮議席がそのまま議席になる予定でございます。

次に、会議録署名議員の指名、会期の決定、諸般の報告を終えたあと、日程第4になりますが、副議長選挙を行います。選挙の投票方法は、議長選挙と同様でございます。副議長選挙が終了後、副議長就任の挨拶を演壇で行い、そのあとに町長からの挨拶ということで所信表明を行うということで聞いております。

その後、休憩して全員協議会を開催いたしまして、本日の会派代表者会議で協議いたしますが、常任委員会等々の議会人事についての調整と申しますか、このときは確認という作業になるかと思っておりますが、確認していただきまして、そのほかに町のほうから選任される選挙管理委員及び補充員について協議していただきたいと思っております。その後、本会議を再開いたしまして、常任委員及び議会運営委員の選任を行うこととなります。

次に、議長の常任委員辞任ということになります。これは参考資料の2ページに常任委員の選任についての（4）で、まずは全員が常任委員になるということになります。そして八雲町議会では

議長は常任委員を辞任するという通例にしてございますので、今回につきましても、このような取り扱いをしたいと考えてございます。そしてその辞任につきましては、副議長の議事によって議長の常任委員の辞任を承認することとなります。その後、議長による議事に戻りまして、各委員会の招集通知をいたします。

次に、裏面になりますが、休憩中に各委員会を開催していただきます。委員会の開催につきましては、総務経済常任委員会、文教厚生常任委員会、議会広報広聴常任委員会の順で、議員控室で開催していただきます。そのあと議会運営委員会を第2委員会室で開催することで考えてございます。各委員会では、正副委員長の互選と、閉会中の継続調査事項を決定していただきたいと思います。閉会中の継続調査における事項についてですが、初議会から12月定例会までの間で常任委員会を開催するためには、継続調査の申し出が必要となりますので、このときに決定していただきたいと思いますというふうに思いますが、まずは大枠で決定していただきまして、その後、委員会で重点項目等あればピックアップしていただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いいたします。委員会終了後は本会議を再開し、各常任委員会、議会運営委員会の正副委員長の互選の結果を報告いたします。

次に、渡島廃棄物処理広域連合議会議員、南部桧山衛生処理組合議会議員、選挙管理委員及び補充員の選挙3件を行いまして、それが終わりましたら、監査委員、副町長の選任同意、農業委員会委員、教育委員の任命同意を行います。最後に、各常任委員会及び議会運営委員会の閉会中の継続調査の申し出の関係を議題といたします。

以上で、本会議は終了ということになります。閉会後につきましては、そのまま議場において町長、代表監査委員の退任の挨拶を予定してございます。そのほかに各常任委員会ごとの写真撮影を第1委員会室で行い、その後に議員会の紹介を議員控室で予定してございます。

以上が、初議会の議事等進行予定でございますので、よろしくお願いいたします。

○座長（斎藤 實君） 説明が終わりました。この件について質疑ございますでしょうか。

（「なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） 質疑なしと認めます。よってそのように決定いたしました。

次に、議長及び副議長の立起表明ですが、まず議会人事の取扱いについて、事務局より説明願います。

○議会事務局長（三澤 聡君） 座長。局長。

○座長（斎藤 實君） 局長。

○議会事務局長（三澤 聡君） 議長、副議長の立起表明の前に資料2の議会人事の取り扱いについてをご覧いただきたいと思います。

この正副議長の決定の流れと常任委員等の決定の流れは、各々平成29年6月9日開催の全協と、令和元年8月8日開催の全協で、既に協議されている内容でございますけれども、今一度ご確認をお願いいたします。

まず、正副議長の決定の流れですけれども、最初に議長へ立候補する方から表明をいただきまして、その後、議員の皆様からの意見をいただき、調整を行っていただきたいと思います。次に、副議長につきましても、同様の流れで行っていただきたいと思います。

仮に調整がつかない場合は、全協を休憩し、会派代表者会議に移行して協議することとなり、その後、全協を再開してその後、調整結果を報告するという流れになります。このような流れを行いまして、本会議での正副議長選挙において決定されるということになります。

次に、常任委員、広域連合議員、議選の監査委員との決定の流れですけれども、会派代表者会議で調整し、その結果を初議会の休憩中に開催される全員協議会で最終確認をし、本会議において選任されるという流れになってございます。

以上のとおりでございますけれども、このあとの正副議長の立起表明にあたっては、ただ今、説明したとおりの流れで進めることとなり、また、常任委員等の決定に際しましても、ただ今の説明のとおり会派代表者会議で調整する流れで進めることとなりますので、よろしく願いいたします。

○座長(斎藤 實君) 説明が終わりました。議会人事の取扱いについて何かご審議ございますか。

(「なし」という声あり)

○座長(斎藤 實君) それでは、まず議長の立起表明を行います。議長に立候補する方はおりますか。

○議員(千葉 隆君) はい。

○議員(大久保健一君) はい。

○座長(斎藤 實君) 複数いますね。立候補者が複数おりますので、五十音順に行います。それではまず大久保議員、立起表明をお願いいたします。

○議員(大久保健一君) 議長に立候補したい理由を申し上げたいと思います。

今回の八雲町議会選挙は、私の知る限り、はじめての無投票になりました。選挙費用の公費負担並びに議員報酬の増額など、立候補を促進する手立ては打ったものの、町民側の無関心もあります。町議会の必要性や重要さを示せなかった我々にも責任の一端はあるかと反省をしています。

これからは議会報告会だけではなく、積極的に議員側から町民の声を聴く機会や、町民と触れ合える機会を増やしていくべきだと考えています。

そのためにわざわざ集まってもらうのではなく、集まっているところに積極的に議員側から出向いていく、町がやっている出前講座のようなものと考えていきたいと思っております。その際に町民側からの議員のご指名等があっても、面白いかと思えます。また、町から示された案件の賛否だけではなく、町の課題を自ら掘り起こし解決していくための提案・提言、または条例を作っていくための議会を目指していきたいと思っております。

また、議会の活性化は常任委員会の活性化でもあります。議員定数も減ったことから委員会人数も少なくなってしまう。問題のある事件についても、視点の少なさから思いがけずスルーしてしまうリスクがあります。より多くの視点を働かせるために、希望した議員には総務経済、文教厚生の方の常任委員会に所属できるように、組織のルール変更を提案したいと思っております。また、一般質問についても皆が共感できる良いテーマであれば、所管委員会の調査対象にするのも面白いかと思えます。

次に、議会のデジタル化です。新庁舎建設に伴う、新たな議場を考えていくうえで、デジタル化は大きく進めていきたいと思えます。まず、議会のペーパーレス化、これは当然避けては通れないと思っております。全議員にタブレットを配付し、紙資料の無駄をなくし、事務局の資料配付の労力とコストを削減していきたい。またそれに伴う情報の保護についても考えていかなければと思えます。ペーパー資料を求める議員を否定はしません。しかし行政がデジタル化していく中、議会だけ

が取り残されていくわけにはいかないと思います。であれば、早く始めるべきだと思います。私も特別にスキルがあるわけではありませんが、早くからほかの団体でペーパーレス会議は経験もしています。また、事務局とのやり取りはメール等で行っております。議員側も答弁する側も傍聴者や動画視聴者もわかりやすいデジタル化を皆様とともに考えていきたいと考えております。

私、大久保が、より良い方向に変えていこう、失敗を恐れず挑戦してみようという気持ちを強く持っていることは、これまで一緒に広報常任委員会をやってきた人には理解してもらえるかと思っております。町民から頼りにされる議員、それぞれの活動を、顔の見える活動を、顔の見える議会を目指していきますので、よろしく願いいたします。以上です。

○座長（斎藤 實君） 次に、千葉議員お願いいたします。

○議員（千葉 隆君） 選挙後、これまでの間に新風会の皆様と私で約束をしたことがございました。そのことを、履行することができなかつたことについて、まずはじめに謝罪を申し上げてまいりたいと存じます。

私は、自分では欠点の多い人間だと思っています。また、自己主張の強いところもございます。また、議員歴が長いことから、これまで過信があった、驕りがあったところも猛省していかなければならないと思っています。

これまでの経験から、一人の議員の力量、限界というものを十二分に噛みしめてきました。多くの議員の皆さんの協力が必要でございます。これまで経験したことの中では、理事者が期限を決めて早急に議論してください、早く決めてこなければ、決めなければ、困るんだといったことを十分な議論、十分な話し合い、協議がない中で進めてきた案件については、おおむね、そのあとで後悔することが多かったように思います。しっかりと立ち止まって議論をすることが、今、必要なのではないかと考えています。

今の町を考えて、川の流れに例えたならば、遊楽部川の支流に逆流の流れの恐れがある。これを自然な流れに変えていかなければいけない。皆でしっかりと議論をすると、そこから生まれてくる結果が、変える力になるのではないかと考えています。この変える力はやっぱり、皆さんが真剣に議論する、その機会を作ることが最善だと思っておりますので、皆さんのご協力をお願いいたします。立起表明とさせていただきますけれども、重ねて、新風会の皆さんには、お約束をしたことを、履行できないことを謝罪をして、立起表明に変えさせていただきます。申し訳なく思っております。

○座長（斎藤 實君） これより各議員の意見を伺います。ご意見ございますか。

○議員（赤井睦美君） 質問でもいいんですか。

○座長（斎藤 實君） はい。

○議員（赤井睦美君） お二人にお伺いしたいんですけども、私、岩村町長はスピード感もあって、借金を減らし基金を増やすというところでは、非常に頑張った方だと思うんですけども、やっぱりそこに足りないのは、町民との会話。それが非常に足りないんじゃないかと。そこは議会が積極的にやっていたところだと思うんです。だけれども私、一般質問の人数が少ないのも、町長とうまくいっているから一般質問が少ないんでしょと他所の町から言われるんですけども、私はそういうことではないと思うんですね。ですからもっと議員研修をしっかりとやるとか、それから町長の政策、さっき千葉さんがおっしゃいましたけれども、町長の政策をついそのまま流してしまうと

かそういうことをなしに、本当に議員みんなでしっかりと、そのことを話し合っ、必ず町民に返して、それを私たちの中でもう一度揉むという、そういう仕組みを作っていただけないかと。

ただ、今までのコロナもあってなかなか議会報告会ができなかったんですけども、そういう中で、もっともっと私たちが町民の声を聴くって姿勢を持たなければいけないと思うんですけども、その辺については、研修と町民の声を聴くとこの二つですけども、これについてお二人はどのように、今のところ進めて行こうとお考えなのか教えてください。

○座長（斎藤 實君） それでは、最初に大久保議員からお願いいたします。

○議員（大久保健一君） はい。私はさっき申し上げたとおり、積極的に町民のところにどんどん出ていくべきだと思っています。先ほど言ったように出前説明会のような、たとえば町の各町内会の新年会とか総会に、こちらが出向いていくような、ただ、こっちが行きたいといっても向こうが望まなければしょうがないので、だけど町民にその選択肢を与えるということはできるので、それはやりたいと思います。研修については今のところはっきりと構想は考えていませんでした。

○座長（斎藤 實君） 次に千葉議員。

○議員（千葉 隆君） おおむね大久保議員さんと同じ考えですし、研修についても何を研修したらいいかという題材は今のところありません。そういうところも含めて皆で協議できると思いますし、方向性は大久保議員さんと同じ方向性だと思いますし、考え方も同じだと思いますが、ただ、さっき自分自身で過信があったという部分、議論の中では、効率性だとかB/Cだとか、あるいは費用対効果だとか、こちらのほうが安く済むとか、そういう議論も必要だと思うんですよ。

ただ、もう一つは、やっぱりその地域性だとか、町民の思い、そういうものを酌み取れる議会になっていかなければ、現実的に町民と報告会を開いても、果実を町民に示すことができないと思うんですね。だからどれだけ議会が町民の皆さんに寄り添う、単なる姿勢ではなくて、議論をして町民のほうに返せる、答えを出せるような議会にしていきたい。とりわけ、この間、選挙戦のあいだ、各議員さんも歩いていたと思うんですけども、強く感じたのは、町長の責任よりも、それを決定した議会のほうが責任が重いのではないかというふうに思っています。つまりは役割と責任を果たせる議会に、全員で頑張っていかなければならないと思いますので、ご協力をお願いいたします。

○座長（斎藤 實君） よろしいですか。

○議員（赤井睦美君） はい。

○座長（斎藤 實君） ほかに意見ありませんか。

○議員（佐藤智子君） はい。

○座長（斎藤 實君） 佐藤議員。

○議員（佐藤智子君） もしかしたら言いづらいかもしれませんが、先ほどの新風会との約束って何ですか。千葉さんにお聞きしますけれども、先ほどの新風会との履行できなかった約束って何ですか。

○議員（千葉 隆君） 一緒に歩んでいこうと。

○議員（佐藤智子君） ちゃんとマイクで教えてください。

○議員（千葉 隆君） 一緒に歩んでいこうという約束です。ただ、そのときは、私どもの会派も2人会派、3人会派という状況だったものですから、今の会派の構成が7人でしたので、7人で協議しながら進めていくことに変化をしたということで、ご理解をお願いします。

○座長（斎藤 實君） ほかありますか。

○議員（佐藤智子君） はい。

○座長（斎藤 實君） 佐藤議員。

○議員（佐藤智子君） この度の町議選挙にあたっては、お二人、勇気をもって立候補されたと思うんですけども、ちゃんと自分のやっていきたいこともお話されて、少し、どういうふうな議会にしていきたいのか、どういう町にしていきたいのかも見えた気がいたします。それで実際に今までの動きも鑑みまして、一党一派に偏ることなく公正に議事を進行していくお考えがあるかどうかをお伺いいたします。

○座長（斎藤 實君） それでは、今度は千葉議員からお願いいたします。

○議員（千葉 隆君） これまでの議会、本会議の中でも一党一派に偏った議事の進行を、前議長さんも、これまでの議長さんもなかったと思いますし、あくまでもルールに基づいて議事進行をしていくつもりでおります。また、議会全体の運営ということについても、一党一派というよりも全員で、何度もお話していますように、協議をするか、議論をするか、そしてそのことに基づいて、町民の皆さんとお話をしていくことが、一党一派よりも重視していかなければいけないことであるというふうに、それは佐藤さんの会派だけでなく、ほかの議員さんも同じように思っています。

○座長（斎藤 實君） 次に、大久保議員。

○議員（大久保健一君） 私もその件に関していけば、千葉さんと全く同じ意見で、これまでの議長さんが一党一派に偏ったようなジャッジをされているとは私も感じていませんでした。当然、公正に行っていくべきだと思いますし、それは会派も関係なく、また町長に味方する派だとか、町長に反対する派だとかそういうことも一切関係なく、やっぱりルールに則って、みなさん議員それぞれ是々非々で考えていくべきだと思います。

○議員（佐藤智子君） はい。

○座長（斎藤 實君） 佐藤議員。

○議員（佐藤智子君） これまでの議長さんが、一党一派に偏ったとかというのは全然思っていないくて、ちゃんと公正にやられていたと思っております。それで問題はこれからの議長さんたちですから、意見書に対する態度とかも含めてですね、本当に町民や国民に利益がある、そういう意見書に対してどうだったのかというのをちょっと頭の中で振り返っていただければと思います。お答えはいいりません。

○座長（斎藤 實君） ほかに意見ございますでしょうか。

○議員（三澤公雄君） あえて。

○座長（斎藤 實君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 両候補がほぼ同じように町民に寄り添って声を聴くという立場に立ってお話されているので、あえて一石を投じたいと思いますけれども、今回、選挙がなかったということに関して、私の周りでは、もう既に決まっていることですが、議員報酬が上がるということに、やはりコロナでもう1年半から2年にかけて所得が減った人たちが多く、非常に抵抗があったと。だから既に決まっていることに対してでも、その状況に、今の状況に合っているのか合っていないのか、もう一度判断するという立場に帰れるのかどうか、今の時点でどのようにお考えでしょうか。

○座長（斎藤 實君） 今の件について、大久保議員さんお願いします。

○議員（大久保健一君） 今回、議員報酬を上げたというのは、そもそも議会の仕事を見直して、公正な、今までなかった判断基準に基づいて、今回、議員報酬を決めたというふうに私は認識しています。だからこれをコロナだから、コロナ禍にあって民間の給料が下がっているとか景気が悪いからということで下げるというふうに後戻りするつもりは、私はありません。

○座長（斎藤 實君） 千葉議員。

○議員（千葉 隆君） 直近の議会の構成の中で決まったことも一つありますし、ただ、議長になる予定、あるいは立起表明をした自分の立場としては、先ず自分の意見を述べることは差し控えたいなと思います。それはやっぱりそういうことも含めて、もう一度考える必要があるのであれば、全議員の人たちがまず議論をして、その中で公正・中立な立場で、会派を離れる立場になりますから、その中でまとめていける部分はまとめていける、まとめていかなければならない立場になると思いますので、そういった考え方で進めて行きたいなど。それは議員報酬だけでなく、ほかのことにも言えると思います。一度決まったことだから、全部いいんだ、でも方向性も変えなければならぬということもあると思いますし、一度決めたことだから、このことだけは守らなければならないということもありますので、そういった部分を総合的に皆さんで議論した結果、一番、今その時点でどういう判断をすればいいかということは、議論の後に表明したいと思います。

○座長（斎藤 實君） ほかにご意見ありますか。

なければ次に移りたいと思います。よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○座長（斎藤 實君） いろいろな意見がありますが、ここでの合意が困難でありますので、この件につきましてはですね、会派代表者会議に一任するということにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） ご異議なしと認めます。よってそのようにいたします。

次に、副議長の立起表明をお願いいたします。副議長に立候補する方はおりますか。

○議員（黒島竹満君） はい。

○議員（牧野 仁君） はい。

○座長（斎藤 實君） 黒島議員さんお願いいたします。

○議員（黒島竹満君） それでは、副議長に立起するというところで、一言ご挨拶を申し上げます。まずは、まずは2期8年の議長を務められました、能登谷議長さん、本当にご苦勞様でございました。そしてまた大変、八雲町議会のためにですね、尽くされましたことに敬意を称する次第でございます。また、4年間、私は能登谷議長を支えるべき立場の中で、副議長をさせていただきました。このことにつきましても、議長並びに14人の議員の皆様方のご理解とご協力により4年間を終わらせていただきましたことに、心より感謝を申し上げる次第でございます。

私は、副議長という立場の中で、大変、今年度ですね、新聞でお騒がせしたことについては、議長をはじめ皆様方に、深く自分で反省をしているところでございます。この部分については、たとえ間接的であろうとも、私の責任は免れないところでございますが、今後、この部分については、今後、こんなことのないように、十分に気を付けてですね、そして反省をして日々努力していくつもりでございますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、私が、立起をしたことに関しては、一言、思いを話させていただきます。議会基本条例は、平成22年から25年9月でまとめてあります。この基本条例に関しては、町民の意見や、そしてまたパブリックコメントなど、様々なかたちでまとめてきている。その中でですね、町民の多くは、議会が何をやっているのか、また議員が何をやっているのか、私たちには議員は遠いところにあります。こういう文言が入っているわけでありまして。それを振り返ってみますと、昨年、議員定数を減らす、そして議員報酬を上げるということですね、町民会議を開き、そして町民の意見を聞いたところ、やはり10年前と同じ答えが返ってきたと。そういう、議会は何やっているんだと。議員は何も仕事していないと。それで、報酬を上げるのかと。まったく10年前と同じ答えであります。そこの部分は、これから議会改革をしていかなければならないのかなというふうに思っております。議長とともにですね、そして、14人の議員が心ひとつにしてこの部分にあたっていかなければならないのかなというふうに思っております。

それと、まずは、議会が変われば、行政も変わると。いう文言が改革の中にあります。この部分をこれからの4年間で一緒に頑張るって努めていきたいというふうに思っておりますので、立候補のご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

○座長（斎藤 實君） 次に、牧野議員お願いいたします。

○議員（牧野 仁君） それでは、副議長立起にあたり、一言ご挨拶させていただきます。

私も8年前に立候補しまして、その頃、人口が私の人口減少少子化対策についても、人口減少にどうしても避けて通れないと思ひまして、当時の八雲18,300人、今現在は15,200人の約3,100人、これ1年間に400人近く減っているということでありまして。これを重要視してきました。

その中で皆さんと一緒に16名からスタートしまして、私は1番の思い出は、やはり人口減少に対しまして、子ども支援対策として、保育園の無料化、国も一緒になりましたけれども、そのほかに給食費の無料化、それと医療費無料化、18歳までの。それをやり遂げたというのはすごくうれしく思っています。引き続き持続できるように、やはり子ども支援はしていかなければ駄目だと私は常に思っています。特にお父さんお母さんの声を聴いて、何かかたちにできないかなと日々思っています。そんな中でそれ以上に地場産業も人手不足、私も事業を起こしていますけれども、やはりこれも八雲の課題となります。やはり多く受けておりますことも確保できないか、財源を確保できないか色々考えております。

二つ目は、高齢者が生きがいを持てる町を目指すには、そういった観点も含めて、財源、特に僕は財政の部分、自分で言うのも変ですけども、数字が得意なものですから、10年、20年、中長期を示しながら財源を確保して、どうやったら町が10年20年、安心して暮らせるかを目標に選挙活動をしてきました。

今後ですけども、やはり新型コロナによって町民にとって、やはり身近な議会、先ほど黒島さんが言うとおおり、これは重要です。私も25年に議員になって、丁度、議会改革が始まって、議会報告会が始まって、とても良い議会の雰囲気でした。それは続けてやっていきたいと思っております。そんなことも考えまして、議長を補佐して、これから住民福祉の向上とともに課題はたくさんありますけれども、解決に向けて努めてまいりたいと思っておりますので、私の立起表明といたします。以上です。

○座長（斎藤 實君） これより各議員の意見を伺います。何かございませんか。

○議員（大久保建一君） はい。

○座長（斎藤 實君） 大久保議員。

○議員（大久保健一君） 黒島議員に先ず質問いたします。

先ほどの挨拶の中で、ちょっとマスク等で聞き取れなかったんですけども、間接的になんだかでお詫び申し上げます、反省していますってお話だったんですけども、それなんて言ったんですか。ちょっと聞き取れなくてすみません。

○議員（黒島竹満君） はい。

○座長（斎藤 實君） 黒島議員。

○議員（黒島竹満君） この部分については、自分といろいろな人の話を聞きながらですね、間接的な、新聞であのように書かれたという部分については。

○議員（大久保健一君） なにを。

○議員（黒島竹満君） 電波法の関係で間接的に。結局、確かに町の財政的な迷惑はなかったんでないかというふうな話であります。だから、本当にあの部分については、簡単に自分で積んでおいて、電波を飛ばさなかったら違反じゃないだろうとしか思っていないでしたから。

ということで、本当に直接的な、財政的な部分では迷惑をかけたわけではないと思って間接的という話をしたわけであります。

○議員（大久保健一君） はい。

○座長（斎藤 實君） 大久保議員。

○議員（大久保健一君） 財政的に町に迷惑かけてなければ、間接的だから良いだろうという解釈でいいんですね。そうではないんですか。

○議員（黒島竹満君） はい。

○座長（斎藤 實君） 黒島議員。

○議員（黒島竹満君） そうです。

○議員（大久保健一君） そういうことでいいんですね。わかりました。

○座長（斎藤 實君） ほかにご意見ありませんか。

○議員（大久保健一君） はい。またいいですか。

○座長（斎藤 實君） 大久保議員。

○議員（大久保健一君） すみません。もう一つ黒島議員のほうに質問します。

お話の中で、議員報酬を上げることに町民から理解が得られてなかったような発言をされていましたが、その議論の中で総括したとき、議会報告会を行ったときには、おおむね肯定的な意見があったかのように私は思っていましたし、総括の中でもそのようなことを話をしていたと思うんですけども、それについては認識は黒島さんは違うということでもいいんですか。

○議員（黒島竹満君） はい。

○座長（斎藤 實君） 黒島議員。

○議員（黒島竹満君） そういう話でなく、町民から、話し合いをしたときには、そういう話が出ているよと。なにも、報酬を結局仕事が見えないのに報酬を上げるのかと。これは実際に出た話でしょ。それで最終的にこれ以上の仕事をあんたたちがやるのであれば報酬を上げればいいでしょという最終的な町民の意見だったと思うんですよ。そうじゃないですか。だから私は、上げたら駄目だよという話でない。あとは大久保議員がどのようにとったのかわかりませんが、多分、あ

そこにいた全議員が、その部分はわかっていると思いますから、それを私の挨拶の中に入れてくださいよ。

○議員（三澤公雄君） 座長。

○座長（斎藤 實君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 議会基本条例を制定したとき、わざわざ前文に書かれている言葉を、今、黒島さんが引用したように、議会は何をやっているんだと。我々の感覚とは遠いと前文書いてあることを引用されて、この報酬を上げる議論をしたときも、あの会場では町民に同じようなことを言われたよねという挨拶がされたんだと思って聞いていました。だから、今、現在、決めたことに私は反対だとか、そういうことではないような挨拶だったと僕は聞いていました。

○座長（斎藤 實君） 三澤議員。どなたに質問を。

○議員（三澤公雄君） 質問じゃなくて、仲介。

○座長（斎藤實君） ほかにご意見ありますか。

いろいろな意見がありますが、ここでの合意が困難でありますので、この件につきましては、会派代表者会議に一任することといたしますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） 異議なしと認めます。よって、そのようにいたします。

ここで会派代表者会議に一任する件について、会派代表者会議を開催するため、休憩いたします。暫時休憩いたします。

休憩

再開

○座長（斎藤 實君） それじゃあ再開をいたします。

会派代表者会議の協議結果について、皆さんに報告しなければならないので、その点について議題といたします。それで、どのような結果になったか、結果だけでもよろしいですから、お二人でお話してくれたら一番いいのかなと思いますけれども、よろしいですか。

（何かいう声あり）

○座長（斎藤 實君） そしたら最初にあいうえお順でいきますか。赤井さん入ったんですね。

○議員（赤井睦美君） オブザーバーなのでいいです。

○座長（斎藤 實君） そうですか。それじゃあ大久保さんのほうから。

○議員（大久保健一君） 私は、調整はせずに、本会議場の選挙で決めることを主張しました。本会議場であれば議会中継もされていますし、どのような意見で、誰が立候補して、投票の結果こうなりましたと、きちんと町民に見えるかたちで示すことも、議会改革の一つだと思っておりまして、正直にそこら辺は町民の皆様に見ていただきたいと思って、そのように主張しました。

実際にこうやって二人が議長選挙に立起しているわけですから、その姿をそのまま見ていただくのが、議会への信頼を取り戻すとか、議会の信頼を高めるということに繋がると思いますので、私はそのような主張をしています。

○座長（斎藤 實君） わかりました。それでは千葉さんのほうから。

○議員（千葉 隆君） 全議員の皆さんで日程調整して今日どういうことをやる、今日はどういうことをしますということを決めたんですね。それで大久保さんの案であれば、本会議場の最後の最後まで、議長、副議長は決まりません。そうであれば、これ以降、会派代表者会議をして常任委員会も決められなくなると思います。議長、副議長も決まらないで、常任委員会の構成がどうであるとか、常任委員長を誰にするとか、監査を誰にするかということは進まないです、現実。そうすればすべての決めた日程が狂ってしまいます。

ですから今日、誰を議長にするか副議長にするかということ、しっかりと調整して決めるということが大事だと。それと、これまでもそうやってきたんです。そのために調整の場で会派代表者会議というものを決めたのも我々ですから、そういう主張をするのであれば、こういう日程やこういうルールでやることを決めたときに、主張して新たなルールを導入するべきだと思うんです。

現実的には議長も副議長も決められないで、決まらないうちは事実上、委員長も決めることはできません。だから、今日決めて、そして調整を、和の中で解決してほしいというふうに思います。それで、現実的に会派代表者会議で決まらなかったものですから、全員協議会の中で議長、副議長をまず決めてほしいなというふうに思っています。その方法はまた協議したいと思っています。

○座長（斎藤 實君） 今、二つの、案というよりも。お話がありました。

○議員（三澤公雄君） 佐藤さんが話してない。

○座長（斎藤 實君） それでは佐藤さんお願いします。

○議員（佐藤智子君） お二人だけの意見で十分だと思っておりますけれども、私の意見は、ほぼ大久保さんに近い意見でして、会派で調整しないで本会議で無記名投票するわけですから、そこで決定するというかたちが民主的ではないかなと私個人は思っております。今日、議長、副議長がここで決まらなければ、今後の常任委員会の委員長やら、議運の委員長を決めるのが困難なのはわかってますけれども、どちらがより民主的かといえば、やはり本会議の中で選挙をするというのが、そういうふうに変わっていく議会であつたらいいんじゃないかと私は思っていますので、そういう意見を主張しました。

○議員（三澤公雄君） 座長。

○座長（斎藤 實君） ちょっと待ってね。

今、三人の方からいろいろご意見をいただきましたけれども、そのほかご意見がある方お願いします。

○議員（三澤公雄君） 座長。

○座長（斎藤 實君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） 今、三人からお話をお聞きしたんですけれども、民主的という言葉が後半のほうに使われましたけれども、話し合いをもって決めてもらいたいと思っています。

というのは、今ここまでの流れの中で、非常に議長の立候補された方々、副議長もそうですけれども、立候補された方々、本当に見事な立起表明をされて、それで話し合いに行ったんですけれども、話し合いで決まらないというのが非常に不思議でございます。また、佐藤さんの会派のほうでは、二人しかいない会派の中ですら、一方の発言だけをもって物事を進められたと、非常に民主的からほど遠い決められ方、代表者としてどうなのかなと思っておりますけれども。この問題も話し合いがなされない。そして日程と違うことを本会議でまたやろうとするというのはどうなのかなと思っておりますし、今、皆さんのお手元の資料を見ましてもわかるように、参考資料の1にあります議長選

挙のところには、会派代表の大久保さんが言われたように、立起表明の場所がないんですね。今回の今、会派代表者会議で立派な立起表明をされたんですから、発言した言葉に則って、しっかりと話し合いのできる議会をここで見せていく、報道関係者もいますから十分、公開もされているので、是非、日程を最大限守るという方向で進めて行けないものかなと思いますけれども。

○座長（斎藤 實君） ほかにご意見ありませんか。

○議員（佐藤智子君） はい。

○座長（斎藤 實君） 佐藤議員。

○議員（佐藤智子君） これまでのルールはですね、会派代表者会議の中で調整をして、議長、副議長一本化するとかたちをとってきましたけれども、私が初当選したときに、何も本会議場で立起表明なしで無記名投票をやったんですね。それってなんか児童会や生徒会にも劣るという感じが私はずっと持ってきたんですね。ただ、八雲町議会はこういうルールなので仕方がないと思っていますけれども、全員協議会の中で立起表明をするということを持ってこれたのも、議会基本条例ができてからのことなんですよ。それまでは全員協議会の中でもそういう立起表明の場がなかったんです。だからやっぱり変わっていくためには、今がチャンスじゃないかなと思います。

○座長（斎藤 實君） ほかに。

○議員（三澤公雄君） 座長。

○座長（斎藤 實君） 三澤議員。

○議員（三澤公雄君） だから今、変わった形を示せたんですよ。基本条例を制定して初めてこういうかたちでオープンで全議員が関わって、立候補された方の立起表明を聞いて、そして行われたことでルールに則って決められないって、こういう悪しき前例を作ること改革なんじゃないか。まず、ルールに則ってやっていこうということをやってもらいたい。

佐藤さん、会派の中の話し合いもね、佐藤さんの個人のお考えでやるのが会派代表者じゃないんですよ。そこをまず考え直さなければならないと思います。会派代表者といった以上は、会派の中の一方の意見が二人なんですから、一方の意見があるんだったら自分だけの考えで進めるんじゃないのが会派だと思います。これはあなたに対してのことになりますけれども、今、発言のことについては、はじめて議会基本条例に則って、このような会派代表者会議、非常に建設的に行われたんですから、まずこのルールに則って答えを出していこうと努力されるほうがいいと思います。

○議員（千葉 隆君） 座長。

○座長（斎藤 實君） 千葉委員。

○議員（千葉 隆君） 佐藤さんの意見は意見としてあるんだけど、新たなルールを作るときは、ルールに基づいて、みんなで新たなルールを作ってから導入するという必要なんだわ。だから既存のルールの中でやってその新しいことをやろうと思ったらまた違う場面で議論をして新たなルールを作らなければならないんだけど、今は旧ルールでやろうと決まっているんだから、それでまず進めることが必要なんだわ。

今日、11月9日まで議長、副議長が実質決まらないんだから、決まらないで、どうやって常任委員長、常任副委員長、会派の委員会の構成調整できます。だって順序も決まっているんですよ。そういうふうにする順序。議長、副議長を決めてから。だって常任委員会を議長は抜けることになってるんだから。だからその順序を無視するというので理解していいの。

○議員（佐藤智子君） はい。

○座長（斎藤 實君） 佐藤議員。

○議員（佐藤智子君） 11月9日の本会議場で、一番最初に無記名投票するわけですよ。そこで議長、副議長が決まりますよね。その後で会派代表者会議か全員協議会を開いて、委員長を決めればいいんじゃないですか。

○議員（千葉 隆君） わかりました。

今、聞きましたね。皆さん。ですから、これまで選挙後行われた前議運協議会で決まったこと、それからこれまでのルールも全部無視して今、進めようということを発言したんですよ。議事日程も皆さんで了承したんですよ。全協で。ちょっとその辺の確認ですけれども、そういうことを私が言っているように、全員で全協やあるいは前議会運営委員会で決まりませんでしたか。その辺議会事務局から確認のうえでちょっと教えていただきたいんですけども。

○議会事務局長（三澤 聡君） 座長。事務局長。

○座長（斎藤 實君） 事務局長。

○議会事務局長（三澤 聡君） 初議会までの流れ、経過というのをですね、どういうふうに初議会に臨んでいくかというところで、10月17日に当選証書を皆さん受け取ったときに、私のほうから前議運会議を、関係者会議を開いて、そこでたたき台を作って今日の全協で決めさせていただきますよということで、よろしいですかということで異議ないということで、皆さん了解を得て今日の日に来ていまして、前段初議会の予定日を11月9日にするというので先ほど決まりました。

議事日程についても、先ほど説明いたしまして、質疑等なしで異議なしということで決めていただきましたので、また、それは確定しているということの事務局としては解釈でございますので、それに則って進めさせていただきたいというふうに思っておりますので、議会人事の調整というのをですね、その議会の初議会の運営をスムーズに行うためにも事前の調整を行っていただきたいということで、これも事前にお話しておりますので、皆さん、そういう理解の下で今日も協議いただいているというふうに思います。

これが初議会で全部調整するとなると、一日日程では終わらない可能性というのが出てきますので、議案の中にも常任委員会、委員長名の議案というのもありますので、その準備等が事務局のほうで時間を要してくるということも発生してきますので、そういうことも防ぐためにも、一日の、朝10時から、前々回も2時3時頃までかかっています。そういうこともスムーズに行うためにもですね、皆さんにお願いして今まで協議していただいておりますので、その辺を踏まえてですね、協議をよろしく願いいたします。というふうに思います。

○議員（佐藤智子君） はい。

○座長（斎藤 實君） 佐藤議員。

○議員（佐藤智子君） 初議会で議長、副議長が決まるまでに、10時から始まって、以前は何分で終わっています。休憩後、全員協議会が用意されていますから。

○議員（千葉 隆君） 佐藤さん。自分で決めたことを、何時間も経たないうちに。

○議員（三澤公雄君） 佐藤さん入れてこれから会議できないよね。決めたことをなかったことにしちゃうんだもん。ひどいな。

○議員（千葉 隆君） それはないぞ。そんな無謀だ。ちょっと前に決まったことを決まっていなくて言ったら。

○座長（斎藤 實君） 暫時休憩いたします。

休憩
再開

○座長（斎藤 實君） それでは再開いたします。ただ今の提案がありました、この場所において挙手でもって決めてはどうかと。こういうご意見がありました。それにつきましては、各委員の皆さんご異議ございますか。なければその方向で進めて行きたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。よろしいですか。返事がなければ私も進めることができないので。よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○座長（斎藤 實君） それではそのようにいたします。ちょっとお待ちくださいね。暫時休憩いたします。

休憩
再開

○座長（斎藤 實君） それでは再開いたします。ただ今、提案がありましたことにつきましては、挙手で決めたいと、このようにお諮りしますが、よろしいですね。

（「はい」という声あり）

○座長（斎藤 實君） それでは議長候補、あいうえお順にいたしまして、大久保議員に候補者とする方の挙手をお願いいたします。

（「賛成者挙手」）

○座長（斎藤 實君） ありがとうございます。

次に、千葉議員に議長候補としてお願いする人は挙手をお願いいたします。

（「賛成者挙手」）

○座長（斎藤 實君） 今、挙げない人いますか。

（何かいう声あり）

○座長（斎藤 實君） そうですね。今、いろいろなご意見がありまして、挙手されましたけれども、千葉議員を議長候補とすることで、おおむね合意ができたということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

○座長（斎藤 實君） それでは次に副議長候補のほうに移ります。それでは副議長候補を決めたいと思います。これも同じく挙手によって行います。最初にこれも、あいうえお順で行いますので、黒島議員を副議長候補とすることに賛成の方の挙手をお願いいたします。

（「賛成者挙手」）

○議員（黒島竹満君） 立候補している人はいいんですよ。

○議員（千葉 隆君） 挙げれる。

○座長（斎藤 實君） 次に牧野議員に副議長候補をお願いするということの挙手をお願いいたします。

（「賛成者挙手」）

○座長（斎藤 實君） わかりました。

黒島議員を副議長候補とするということで、おおむね合意ができたということによろしいでしょうか。返事してください。

(「はい」という声あり)

○座長(斎藤 實君) ご異議なしと認めます。よってそのようにいたします。

◎ その他

○座長(斎藤 實君) 以上でですね、本日任されました協議事項が終わりました、そのほか何か皆さんからご意見ありますか。なければ事務局のほうからありますか。

○議会事務局長(三澤 聡君) それでは事務局のほうから二点お知らせいたします。

一点目がですね、17日にもお知らせしておりますけれども、身分証明書用の顔写真の撮影を本日で明日ということで末広町の伊藤写真館で行っておりますので、今日明日、都合の良い時間に伊藤写真館のほうで撮影をお願いしたいと思います。議会事務局で撮影に来たということで名前を言ってもらえれば分かるようになっていきますので、よろしく願いいたします。

もう一点、行政視察のですね、依頼が来ていまして、厚岸町議会からですね、11月の11日木曜日ですけれども、初議会の二日後にですね、行政視察に来たいということで、サーモン養殖事業についてという要請でありました、町側と協議しまして、受け入れるということでですね、了解しております。それで議会側の対応としてはですね、議長にですね、出席いただいて挨拶をもらうというかたちでですね、あとは町側のほうで説明等しますので、議長が決まりましたら11日に午後から挨拶等、対応をお願いしたいというふうに思っています。

○座長(斎藤 實君) よろしいですか。

○議会事務局長(三澤 聡君) はい。以上、二点でございます。よろしく願いいたします。

○座長(斎藤 實君) それでは事務局からの報告も終わりましたので、本日の会議はこれで終了したいと思いますよろしいですか。

(「はい」という声あり)

○座長(斎藤 實君) どうも皆さんご苦勞様でした。ありがとうございます。

[閉会 午後 0時41分]